

令和4年度（2022年度）行政評価シート【個表】

令和 4 年 7 月 25 日

評価対象事業		評価者	広報課長 小川 充則	
共生-12	広報事業	<input type="checkbox"/> 自治事務	主管課	広報課
		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	市民自治	施策の方針	市民自治

1 事業の目的

対象	市民等
意図	市政情報その他の情報を的確に市民等に伝えるため。
効果	市民の市政への参加及び参画を促進し、市政等に対する理解を深めてもらう。

2 令和3年度(2021年度)に実施した事業の概要

広報かまぐら編集・発行・配布を行った。J:COM湘南・神奈川、鎌倉エフエムによる市政情報番組の放送の委託、広報板の維持・管理、ホームページの運用等の事業を行った。SNS(Twitter、Facebook、LINE)を用いたきめ細やかな行政情報の発信に取り組んだ。また、新規事業として鎌倉市note公式アカウントの開設を行い、主に市の重点事業を中心とした内容について発信を行った。

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和3年度		令和4年度	達成度
				指標(実績値/目標値)	指標(目標値)	達成度	
				事業費(決算/当初)(千円)		予算額(千円)	
01	広報かまぐら発行事業	広報紙製作委託料、 広報紙配布委託料	発行部数	78,800 / 78,800	78,800		
				38,734 / 37,043	35,036		
02	市政番組放送事業	市政番組放送委託料 (J:COM湘南・神奈川、 鎌倉エフエム)	放送回数(J:COM、FM 平日、FM土日)	4回、6回、2回 / 4回、6回、2回	14,005	14,995	
				14,005 / 14,005	14,995		
03	HP,SNS運用事業	ホームページ運用保守 業務委託料	市ホームページアクセ ス数(サイト全体の訪 問数)	7,101,384 / 5,000,000	5,000,000		
				4,888 / 4,909	5,042		
04	広報板維持管理事業	広報板掲示箇所	広報板掲示箇所	127 / 130	126		
				2,167 / 1,901	2,049		
05	重点事業広報	note記事等製作業務、広 報戦略ディレクター報酬	note投稿本数	10 / 10	35		
				2,507 / 3,920	3,920		
06	その他庶務等	新聞記事複写使用 料、インターネット行政 情報サービス利用料		- / -			
				1,909 / 2,020	2,333		
			国県支出金	193 / 261	316		
			財源 内訳				
			地方債	/			
			その他特定財源	12,516 / 5,090	9,598		
			一般財源	51,501 / 58,447	53,461		
			事業費の合計(千円)	64,210 / 63,798	63,375		
			人件費(千円)		58,522	59,116	

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	4.5	6.0	6.0			
会計年度任用職員	10.5	10.0	10.0			

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	広報かまくら発行事業	全戸配布を行っており、全市民に情報が行き渡っている。	全市民に市政情報が行き届くために必要な事業である。	特になし
02	市政番組放送事業	J:COMは1日4回、かまくらFMは平日6回・休日2回の放送を行い、あらゆる世代をターゲットに放送を行うことが出来た。	誰もが視聴しやすいテレビやラジオという媒体を使用し、幅広い世代に情報を届けるために必要な事業である。	特になし
03	HP,SNS運用事業	令和3年度は新型コロナウイルスワクチン接種が開始したことに伴ってアクセス数が大幅に増加した。令和4年度は新型コロナウイルスの感染状況が若干落ち着くことも想定されるが、コロナ禍前は概ね月30～40万のアクセス数で推移していたことから、そこから20%程度増加させた年間500万を目標値とし、必要な情報の更新を適切に行っていく。	ホームページは必要な情報が必要な時に見られる重要なツールである。また、SNSは即時性があり、きめ細やかな情報発信を行うために必要な事業である。	特になし
04	広報板維持管理事業	令和3年度は台風の影響もあり、予定より多くの広報板の撤去を行った。昨今のインターネットの普及により、広報板のニーズが減ってきていることもあり、今後は費用対効果と、地域ごとの状況を見極め、広報板の撤去の是非なども含めて判断していく。	ホームページなどのデジタルツールに対応出来ない高齢者などへ向けての情報発信ツールとして必要な事業である。	特になし
05	重点事業広報	令和3年度途中に開始した事業であるため、令和4年度はより多くの重点事業の内容について発信していけるよう取り組んでいく。	市の重点事業をわかりやすく周知するため、必要な事業である。	今後は対象事業を広げて、より定期的に情報を発信をしていきたい。
06	その他庶務等	新聞のクリッピングや消耗品などは指標分析に適さないため、指標の設定を行わない。	新聞のクリッピング等により、本市に関連した情報を、各職員が把握するため必要な事業である。	全職員に情報が届くよう、さらなる改善を図っていきたい。

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか		1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか		1 実施済み
	関連・類似する事業の統合はできないか		3 統合できる事業はない
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか		1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか		3 民間によるサービスで代替できる事業はない
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか		1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か		△-3 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
	協働	市民等と協働して事業を展開しているか	○-2 市民等と協働して適切に事業を実施している
○.協働実施済 協働実施済の場合のパートナー 株式会社サイネックス、鎌倉市点訳赤十字奉仕団、鎌倉朗読・録音奉仕会			

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】 拡充 改善・変更 現状維持 縮小 休止・廃止

広報かまくらは、令和3年度に紙面構成の変更を行ったほか、情報発信の重要な媒体として制作委託を行うことで読みやすい紙面とし、デザイン担当職員や編集担当職員等、専門の職員が関係各課と連携を取りながら紙面の作成をすることで、タイムリーな記事を掲載することができている。また、ホームページやSNSなどを用いながら、あらゆる手段で情報発信を行うよう取り組んでおり、有効かつ公平であると判断している。協働事業としては暮らしのガイドブックの新規発行のほか、音声版広報かまくらや点字版広報かまくらなどを制作しており、今後も継続していく予定である。

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	単位						
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
	目標値						
	実績値						
	達成率						

指標(単位)	単位						
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
	目標値						
	実績値						
	達成率						

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	広報かまくら月発行回数							
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市
他市実績	1	2	1	2	1	1	1	1
比較事項	広報紙1部当たりの発行単価							
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市
他市実績	18.0	9.6	7.1	8.2	33.2	12.4	35.2	13.1

<p>当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方</p>	<p>重要な情報発信手段である広報紙は、自治体によってタブロイド判又はA4判での発行となっており、A4判の方がページ数が増え、発行単価も高額となっている。</p> <p>本市においては、令和3年7月から月1回、12ページ、フルカラー(タブロイド判)にリニューアルを行った。月2回の発行時と比較すると、発行回数が少なくなることで単価は上がるが全体の金額は抑えられ、さらには紙面構成の変更により読みやすい紙面で内容の充実を図ることが可能になった。</p>
------------------------------------	---